

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 33 号

平成 9 年 3 月 3 日発行

編集者 大野 良 樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬
谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

イタリア釣り紀行（上）（環境生態学講座教授・井田 齊）

楽在人和（4A・田中 一彦）

ダイビングサービスと民宿を経営して（5A・加藤 大輔）

三陸を振り返って（水産食品利用学7F・佐藤 光毅）

空を見上げてみませんか（21A・新井 直美）

第24回漁火祭開催報告（漁火祭実行委員長・河股 勲）

from 事務局 ※平成9年度総会開催について ※関東地区会員親睦会のお知らせ

※三水会代議員の改選について ※「小林正典先生の新たな出発を祝う会」のお知らせ

平成8年度水産学部同窓会講演会



第24回漁火祭

イタリア釣り紀行(上)

環境生態学講座教授 井田 齊

昨年、八回生の奥山文弥氏から「地中海周辺での釣りを楽しませんか」とのお誘いを受けた。教員と卒業生が釣りを楽しみながらヨーロッパの釣りを紹介しようという企画のことである。その時私は少なからず戸惑いを感じ、返事するのに大いに躊躇した。というのは、近年の無秩序ともいえる釣りの対象魚の放



ジョワキーノ父子と
(カブラス湖にて)

流とファッション化している釣りブームに少なからぬ不快感を持ち続けているからである。従って、私が釣りに対して基本的に批判的、懐疑的な姿勢で臨んで来ていることは多くの卒業生諸氏が知っていることである。そんな私が釣りの番組に出るのはちょっと恥ずかしいし、正直いって私は釣りが下手である。魚は様々な状況に合わせた行動をとって永い時を生き抜いて来ているのだからそれぞれ状況が変われば行動を変えてきた。場所や時間が変われば当然仕掛けも変えねばならない。私はそういういったきめ細かさを持ち合わせていない。事実、昨年の五月十四日から二十三日までのイタリア訪問中に何十回となく竿を振ったがただの一本も釣れていない。しかし、私は釣りは嫌いではない。人のほとんど訪れない山奥とか遠い離島で竿を入れた途端にググッと引っぱられような豪快さが好きなのだ。そう、単純で短気でわがままなのだ。

近代生物学の原点である生物分類の基礎を確立したのはリンネである。彼が素材とした多くの動植物は、当然のことながらヨーロッパの自然からのものである。わが国のマサバは *Scomber japonicus* であるが彼の海に産する近縁種は *Scomber scomber* でありマアジ *Trachurus japonicus* の基本となった種は *Trachurus trachurus* である。つまり、ほとんどの種のお手本とも言える基本はヨーロッパ産のものなのだ。特に地中海からは多くの魚が記載された。魚の分類を学ぶ者にとって地中海とそこに棲む魚は魚類学の原点とも言える。また、学生諸氏にも新しい素材を提供できることにもなる。不格好な理由ではあるが、新たな標本の入手と未知の魚の生息地の体験の魅力とそれに奥山氏の熱心な勧誘もあったので結局、同行に同意した。

釣り紀行の番組組であるので当然魚が釣れなければ格好が悪い。従って事前にかんがりの打ち合わせが必要であった。しかしながら、奥山氏の意見はほとんど組み入れられなかった。取材者側は意外性、ハプニングを期待してアクターの奥山氏には多くを相談しなかったのである。五月十三日から二十四日まで約十日間のイタリアはサルデニアの釣り旅は初日から御難続きであった。成田で預けサルデニアの空港で受け取ったトランクの一つが壊され中身の一部が無くなっていた。

教訓その一・鍵は二重、三重に。

釣りの醍醐味は様々、でもスズキ釣りの豪快さは今更説明する必要はないであろう。取材のスタッフも地中海産のスズキ(日本産のものとは関連はあるけれど性質はかなり異なる)を目的の一つとして、初めからスズキの情報を集めた。一番目の取材地アルゲーロ(島の北西に位置)では現役を退き、港で釣りを楽しむマリオさんの案内でスズキに挑戦した。港では少なからぬ人たちが(老いも若きも)が釣りを楽しんでいたが、釣れるというスズキは誰一人釣っていない。それでも釣れるというので奥山氏は試みたが釣れるのはタイ科やアジなど小物ばかりであった。何のことはないマリオさん達のスズキはボラであった。一日目の結果は名人を称する奥山氏にとっては極めて不満なものであったが、その日の夕食はマリオさんの招待で奥さんの手料理を楽しむことができた。また、お嬢さんは若く大変に魅力的な

女性であった。

——教訓その二・アマチュアの助言はそれなりに評価すること、一〇〇%信じてと落胆が大きい。

その後はオリスターノ（島の南西）に移動し湾内や河口域でスズキ釣りを試みたが結果はどこでも坊主土地の人たちの曰く「つい先日までは釣れたが今はオフシーズン」、ここはだめ、他なら釣れるかも」などなど。結局、五月十五日まで訪ねた地先に欧州産のスズキ *Dicentrarchus labrax* が確実に生息しているという場所にはたどり着けなかった。オリスターノ市の近くのカブラスには汽水湖がある。そこでジョワキノさん親子が取りしきっている梁漁の組合があり、その梁で季節によって変わった魚を捕っているとの情報を得た。五月はボラの季節というところでスズキは全く期待できないが魚の様子を見学することにした。梁は極めて本格的なもので二十〜三十mある水道を仕切っており、二十〜三十cmほどのボラが大量に入っていた。夜間には別の漁業もあるとのこと、広い湖でもあるのでボラ以外にも何かが捕れるだろうということと同乗した。夜も更け満天に星が輝く中を小さな船外機付きのボ-

ト三隻で操業したのは追い込み刺し網漁というものでわが国では三十年も前に廃れてしまった方法であった。魚がいそうな場所に刺し網を半円状に巻いた所で開いた場所から水面を棒で叩いたり舟底を足で蹴り音で魚を脅し網に絡ませる漁法で学生時代に経験したことを思い出させてくれた。捕れたのはほとんどがまるまると太ったカラスミ用のボラであったが、中に三尾の小さなスズキが混じっていた。分けていただいたのはもちろんであったが、奥山氏にとっては小型であり釣りの対象ともなりえない個体しかいず、腕を振るえないことがはつきりしたのでここでも落胆した。

磯釣り大会があるというので奥山氏と私は再びアルゲロに戻った。そこで日本から来た名人の腕をご覧にいれようというのだ。私はいわば傍観者、参加者の釣獲物は計量後、放流されると聞いていたので、標本採取の絶好の機会とばかりほくそ笑んでいたが、奥山氏にとっては大変な迷惑であったろう。中・大型用の仕掛は持参しても岸近くで様々な小物を多く釣らねば優勝できないというような大会に出場しなさいといわれても磯釣り用の仕掛は用意してい

ない奥山氏にとっては寝耳に水で大きな迷惑だったから。当日の朝、不十分な条件で参加させられた奥山氏は十数尾の魚を釣ったが準備不足から入賞はできなかった。しかし、さすがは名人、大きさでは最大のタイ科の魚を手にした。

彼にとって自らの腕を発揮することなく引つ張り回されること一週間を過ぎた。いわばテニスをしなさいと言われたのに、現場で急に卓球で勝負しなさいと言われているようなものだ。彼にとっては全く不本意な日々が過ぎていったが、私の方は魚屋さんの店先や釣り大会のおこぼれなどで確実に標本を増やしていった。しかし、その地先に生息する種がどのような生活史を送っているかといった情報を得ることなしに、あっちこちに引き回され行った先々で釣りなさいと言われる奥山氏にとって準備など十分に無いまま対応するのはやりきれない気持ちでいっぱいだったろう。

私たちにあって最悪な事件も起きた。旅も半ば、ひと息つこうということで島の南西端にあるタロスにあるフェニキア・ローマ時代の遺跡を見学した。駐車場は広く見通しも良いので私はナップザックの中に小物

をいれ車の中において出た。観察者としては無くしてはならない野帳をいれたまま。なだらかな斜面に造られた商業都市とのことで、石造りの街並みは往時を忍ばせるに十分なものがあつた。見学を終えて車に戻って見ると戸の鍵は壊されており、全員の心を過ぎったのはもちろん、何か大切なものをとられなかっただろうか？ であつた。案の定、一人のカード、航空券が被害にあつてた。私は愚かにもそれまでの標本に関する情報を記入した野帳をやられてしまった。帰国して際に妻に言われたのは「とられる方が間抜け」の一言であつた。私は例外、やられる筈がないと思っていた自分自身が情けなかった。ホテルについてからそれまでの一週間の記憶を賢明に思い出しながら、また、自分の愚かさを呪いながら野帳を作り直した。

教訓その三・先人の戒めはよく守ること。生兵法は怪我の元。（つづく）

（下は次号に掲載します）

☆

☆

楽 在 人 和

田中 一彦 (4A)

水産学部を卒業して、ほねつぎ（接骨院）になる為、いちからスタートした。学校へ行き、勉強を始め、それから接骨院、鍼灸院、カイロ院、整形外科など、長い修業を続けた。そしてやっとの事で、「田中接骨院」を開業することができた。

当初は、技術を磨くことを考え勉強をした。当然今の医療器械に目がゆき、驚くばかりであった。どんな良い器械があっても、診断するのも受ける側も、人間であること。つまり術者は、正確な診断の目を持たなければならぬ。又、人間の判断レ

ベル差、受ける側の感受性なども考慮しなければならぬ。ただし、器械の良さは、人間よりも測定や計算は早いので、術者は利用し診断の補助とすれば良い。

現在の医療は、日々、全体に進歩している。良い点は、どんどん取り入れてゆかなければならない。又、昔の医療の長所も、残してゆきたいと思う。東洋医学と西洋医学の長短所を勉強し、選択するのは、自分であることがわかった。

私は、現在診療においていつも考えている事が三点ほどある。

①治療

(i) 気の流れ

怒り過ぎれば肝を傷り、喜びを過ぎれば心を傷り、思いすぎれば脾（胃）を傷り、憂い過ぎれば肺を破り、恐れ過ぎれば腎を傷る。

(ii) 血液の流れ

もしケガをして、早く治すには、栄養と酸素が運ばれ、老廃物を早

く取り除くことである。日常の運動、食生活等より、平均して血液が流れることが肝要である。

②運営（経営）

経営は、金銭の事ばかりでなく、時間の制限、労力等、自分で、出来るだけの努力をすること。

③心

仁（いたわり）、誠意を以て治療する。現在は、この心が少ない時代なので、特に必要ではないか。

この三点を、どう料理するか、これが私の課題である。

会員だより②

ダイビングサービスと民宿を経営して

加藤 大輔 (5A)

東京の南国の八丈島——もし、あなたのお手元に地図があったら、ちょっとひらいてみてください。

東京都心から真すぐ南へ三百キロ、飛行機ならわずか四十分で着いてしまふ島・八丈島があるのを見つけてください。

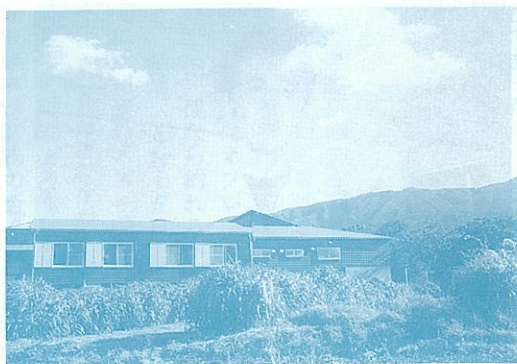
八丈島は、漁業・農業・観光などが主な産業で、海と山と黒潮の恵を生かした。昔ながらの生活がじょう

料理に和え物がある。これは二種類以上の材料を混ぜて、いわゆる「第三の味」が生まれて、はじめて美味となる。それぞれの材料が、めいめい勝手な味を失わないでいて、しかも、調和された第三の味が、和えものの味である。和合は混合とは違う。音楽の和音、例えばドミソの和音、これも第三の音である。

結論を言うと、治療技術、人間関係等、複雑な味を、和えまぜて「第三の味」、いわゆる和となるような治療をする事が目標である。

ずに受け継がれている。人工的でない町です。人々の生活時間は、自然環境——天候、季節、黒潮などによって変わり、都会から来た人には、この「島時間」に大きな戸惑いを感じさせます。

私が大学を卒業して約十六年、その間東京・大阪などで働き、八丈島に移って来たのが平成元年、八年前の事です。学生時代から始めたダイ



ビングが私の唯一の仕事で……学生時代にもっと真面目に勉強していれば堅気な仕事もできたのに……それまで伊豆の海が仕事場だったので、八丈島の海は美しく、都会の人が求めている要素がいっぱいの海と自然が有り、家族と移り住み、目の前が海という環境で働き始めました。在学中にダイビングクラブに在席していたおかげで、卒業後も学生の方々と接する機会があり、八丈島移住後も、居候という身分で学生の諸君が毎年のように訪ねてくれます。今年も春から学生が居候に来てくれて昨年の秋から始めた民宿の手伝いや、準備に精を出してくれ、大いに助かりました。

ダイビングサービスと民宿という仕事柄、他の大学の学生とも多く接していますが、北里大学の学生はそれの中でも「群を抜く特性」があり、忙しい時期には、私に怒鳴られる役が、彼らの仕事となることが暫々で、彼らには申し訳ないと思っはいるのですが……。長く学生たちを見てみると、学生の中にもいろいろな問題が有る事も解かり、何とかしてあげたいとも思うのですが、学生の諸君が自分達で解決しなければいけないと、かってに考えて、なるべく口や

手を出さないように心がけています。私としては随分前に自分達がやっていた事とだぶって、懐かしくさえ思っています。

八丈島という小さい島に移り住み、友人達とも離れて、親戚もないような所に住んでいると、一回り以上年下の学生も、仲間のようになってしまいい、次はいつ来てくれるのか、と心待ちしています。そんな事もあって、民宿を始めたのかもしれない。八丈島は、三陸にもまけない

会員だより③

三陸を振り返って

三陸の学生時代の卒論のテーマ丸は、「大豆油におけるシリコン油の抗酸化抑制機構の解明」でした。その当時は何も判らず先輩から言われるまま実験に取り組み、油まみれの毎日を送っていました。食品利用学研究室において太田静行先生、今は亡き日下先生に大変御世話になりました。太田先生とは退官された現在も、仕事上、度々お世話になっている次第です。偶然にも、卒論のテーマである抗酸化剤、即ち食品添加物等の

海と山が有り、自然の中の感覚を、思い出していただくには、最適の場所であると思います。学生の諸君も怒鳴られるのにこりず、来島して下さい。又、卒業生の方々も、ご家族で遊びに来て下さると幸いです。どうぞおじゃりあれ。

(民宿名) オーシャンブルヴァート

〒100-15 東京都八丈町三根三九一六

TEL (0496) 210-118

FAX (0496) 210-119

佐藤 光毅 (7F)

販売及び製造等を行っているのが現在私の務める会社、青葉化成です。宮城県仙台市に本社を置き東北六県、東京、大阪に営業所を配置し、食品工場へ、食品添加物、その他衛生薬剤を技術サービスと合わせ販売しております。私は現在、これら業務の中で製造部門に携っていますが、製造部門設立後数年しか立っておらず、少人数で、大変広い業務内容となっています。試験管を振りながら工場機械の修繕、はたまたユーザー工場



での立ち会いテストと、自分で時々何をやっているのか判らなくなることにすらあります。しかしながら自分の開発した商品を自分で製造し自分で販売した時の喜びは、また格別です。また今年は、食品業界において未曾有の食中毒患者を出した病原性大腸菌、O-157は、当社にも様々な影響を与えました。私の部門においても製造品目である洗浄殺菌剤や殺菌用アルコールは、前年をはるかに上まわる生産となりました。この現在製造している洗浄殺菌剤は、陽イオン界面活性剤を殺菌成分とし、洗浄成分である非イオン界面活性剤を組み合わせた製剤です。次亜塩素酸

ナトリウム等のハロゲン系の殺菌剤と違い、有機物の影響をあまり受けて浸透性に優れているため現在食品業界で広く使われている殺菌剤の一つです。当社もO-157発生からほどなく菌株を入手し、殺菌テストを行い効果を確認しておりました。今後ますます重要視される食品衛生において、これら衛生薬剤の開発やHACCPの理論の業界普及が必要となり、当社もこれらに力を入れていきたいと思っております。またライフサイエンスを主眼とする当大学の各学部の諸先生、研究生の方々も、O-157に関して多角的に研究を進めていらっしゃると思いますが今後の御

会員だより③

「空を見上げてみませんか」

新井 直美 (21A)

最近、空を見上げたことはありませんか。とかく、忙しくなりがちな私たちの生活の中で、ボーッと空を眺めることなどなくなってきました。こんな私たちも幼少の頃は、絵日記などで海にもくもくと入道雲や青い空にぽっかり白い雲など書いたことのある人も多いのではないでしょう

検討を御祈りいたします。私も当大を卒業し、はや十五年近くなりますが、時々学生時代の専門書を広げ、仕事のために使うことがあります。その都度、もう少し授業を真剣に受ければ良かったと思うことは当然のことながら、当学部、特に食品学科のカリキュラムは、現在の仕事に非常に役立っていることを実感します。そのカリキュラムは、実社会において実践的な知識となるための先生方のご配慮かと思われまします。諸先生、合わせて現在多方面で活躍されているOBの方々の御健勝を心からお祈りし、三陸町にある水産学部を懐かしく思う次第です。

あります。空の青を海の青に見立てているのかもしれない。

その海の生き物の名前の付いた雲、さば雲には、「さば雲は雨」ということわざがあります。さば雲は巻層雲のことで、低気圧のはるか直面にあるので、低気圧の進む方向や速度によって、雨が降らなかつたり、遅れて雨になったりと、雨域と巻層雲までの距離が離れているため、当たる確率は半分強と言ったところだそうです。似たようなことわざに、「うろこ雲が出ると雨」、「うろこ雲は三日のうちに雨」などがありますが、いずれも雨にならない場合も結構あるようです。

秋になると空が澄み、いわし雲がよく見られるようになります。いわし雲は一年中見られますが、秋にいちばん多く見られます。この雲が出るとイワシがよくとれると言われ、いわし雲と呼ばれるのはそのせいかもしれません。

か。
私が学生の頃サンプリングに出る前日は、空を見上げ明日の天気を予想し、天気予報に耳を傾けていました。その頃からでしょうか、私が雲に興味をもったのは。
雲には、イワシ、サバといった海の生き物の名前が付いているものが

青空に、クラゲがふわりふわりと浮かんでいるような雲が見られると気があります。これは、くらげ雲と呼ばれています。低気圧や前線が通過した後や移動性高気圧の前に現れるので、天気がよくなるようです。ちよっと変わった雲では、高波の



第二十四回漁火祭開催報告

漁火祭実行委員長 河股 勲

大自然に育まれたこの三陸、水産学部において、今年も十月十九日と二十日に「第二十四回漁火祭」を開催することができました。

今年のテーマは「伊東に行くならハトや祭りに行くなら漁火祭」と決定され、お祭りに行くのであれば、是非漁火祭に足を運んで下さい、というものになりました。これは、学生から募集し、再び投票を行った結果一番人気であったものです。

初日は、今年も大漁踊りによって幕が落とされました。金石・大船渡などを練り歩きましたが、好評を博していたようです。

ように流れ落ちながら、途中で消えていく滝雲と呼ばれる雲があります。飲み込まれそうな気にさえなり、壮大なものです。このような雲を飛行機で上から見てみたいものです。

なかなか楽しいものです。雲は、誰にでも身近に楽しむことのできる大自然です。「あの雲わたあめみたい」と名前をつけながら見ていると飽きないものです。また、朝焼けや夕焼けなど、赤く染まった空は青い空では見られない雲の違った表情を見せてくれます。世の中の難しいことから少し離れて、空を見上げてみませんか。

企画は、ゼロハンGPやお菓子な魚つり、ゲーム大会などを行いました。たがいずれも、にぎわっていました。又、恒例のチャリティバザーは、朝から多くの方が訪れ、ほぼ完売しました。その売上金は、全て「三陸町社会福祉協議会」に寄附することになっています。又、今年、活発な文化会による様々な企画も行われました。奥山文弥さんによる講演会を企画したクラブ、ピンホールカメラで撮影から現像までを体験させてくれるクラブ、七宝焼きを体験させてくれるクラブなどがありました。

展示は研究室によるものがなかったのが少々残念でしたが、天体写真や様々な生物そのものの展示もあり、各クラブの日頃の活動の成果があらわれていたようです。模擬店は、各研究室をはじめ、体育会のクラブにより出店されましたが、それぞれ趣向を凝らしたものとなっていました。

二日目は前日に加え、お魚大図鑑・武道系クラブによる演武が行われました。微生物学研究室の野村教授による「野村塾」なる講演も開催されました。そして面白いタレント「男同志」による「男同志ショー」も開かれ、会場となった体育館には、地元の方々なども合わせ、多数の来

場者があり大盛況でした。

後夜祭では、宝クジの抽選会、マイカー自慢大会の結果発表などが行われました。恒例のミスターレディーも行われ、皆その姿に見とれていた(?)ようでした。又、有志によるダンスも披露されて、盛り上がりしました。バンドによる演奏に合わせて、皆はちぎれんばかりのエネルギーを放出していました。

今年の漁火祭も無事に終了することができました。それは、我々実行委員の力だけでなく、地元の方々や三水会の御協力があったからです。ここに実行委員を代表して、厚く御礼申し上げます。

最後に、ここ三陸という少なくとも他のキャンパスとは異った、海、山、空を持つ我々の水産学部における漁火祭が、来年も、より良いものになることを願っております。

☆

☆

From 事務局

平成9年度総会の開催について

下記により平成9年度総会を開催いたします（会員は傍聴できます）。

〈開催日時〉平成9年5月18日（日）11:00～ 〈開催場所〉北里大学薬学部E号館8階802会議室（白金校舎内）

〈協議事項〉平成8年度事業報告・決算、平成9年度事業計画・予算、代議員・役員改選、その他

From 事務局

関東地区会員親睦会のお知らせ

三水会では毎年、関東地区の会員とご家族を主な対象とした親睦会を開催しておりますが、今年は、毎回ご好評の「す立て遊び」の企画で千葉県富津市において開催いたします。ご家族を含め、多数の方々の参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、会員名、卒業年、住所、電話番号、参加者数（大人・子供（小学生以上）・幼児別）を明記し、郵送またはFAXにて6月30日まで事務局あてお申込下さい。参加希望者には地図等詳しいご案内を上げます。

なお、船の関係から人数制限がございますので先着順とさせていただきます。

1. 開催日時 平成9年8月2日（土）（午前7時30分現地集合）
2. 集合場所 「静養園」千葉県富津市大堀1528
3. 参加費 大人4,000円 子供2,000円（小学生以上）
4. 参加申込み方法

●《三水会事務局》 〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 電話・FAX 045-303-3135

From 事務局

三水会代議員の改選について 一代議員推薦のお願い

本年5月の総会において、代議員・役員の改選が行われます。つきましては、代議員の推薦（自薦・推薦）を下記により受け付けますので、氏名、卒業年、学科、卒論講座名、住所、連絡先電話番号、他薦の場合は推薦者名をご記入のうえ、葉書またはFAXで、事務局あてお送りください。

代議員資格：三水会正会員 推薦受付期限：平成9年3月31日

From 会員

「小林正典先生の新たな出発を祝う会」のお知らせ

水族病理学研究室教授として23年間にわたり教鞭をとられました小林正典教授が、今年3月に定年退職されます。病理学研究室OB会では、先生の長年のご苦勞をねぎらい、新たな出発をお祝いする会を下記により開催いたします。OBの皆様はお誘い合わせのうえ、是非ともご参加ください。なお、新卒の皆様、隠れ病理OBの方は特に歓迎します。

お申し込みは、3月24日までに郵送またはFAXでお願いします。

日時：4月5日（土）15:00～19:00

場所：北里本館2階大会議室（白金校舎・港区白金5-9-1） 会費：1万円

（記念品代込み、ご夫婦で参加の場合2人で1万円）

内容：①15:00～ 千秋楽特別講演 ②16:00～ 立食パーティー（1階学生ホール）

申込・問合せ先：3A・長谷川一敏/TEL 0554-43-1014 〒402 山梨県都留市夏狩2285

4A・石井 美華/TEL・FAX 045-303-3135 まで